

校長室だより  
NO. 31  
平成30年10月1日

# すべては光る

梅園小学校長  
たか すりょうへい  
高須 亮平

## 言葉は時代の移り変わりで変わるものか

文化庁が、2017年度「国語に関する世論調査」の結果を発表しました。この調査は、国語に関する国民の意識や理解度を調べるため、1995年度から毎年実施しています。今回は16歳以上の男女3579人に面接し2022人（56.5%）から回答を得たということです。具体的な調査内容は、「Ⅰ 国語や言葉への関心」、「Ⅱ 句読点や符号の使い方」、「Ⅲ 表記の決まり」、「Ⅳ メールの書き方」、「Ⅴ 外来語についての意識」、「Ⅵ 新しい表現や、慣用句等の意味・言い方」です。

この結果は、新聞紙上でも大きく取り上げられていました。なかなかおもしろい結果となっているものもありますので、そのようなものを取り上げて、今回は私たちの言葉について考えてみます。

まず、「Ⅰ 国語や言葉への関心」についてです。「書き言葉や話し言葉の使い方はどうあるべきだと思うか」の問いは次のような結果でした。（数字は%）

調査内容	今回	H20
言葉は大切なので、書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだと思う	47.6	33.3
書き言葉も話し言葉も、言いたいことが相手に通じればよいので、細かいことは気にしなくてもいいと思う	13.3	11.5
書き言葉は正しく整えて使うべきだが、話し言葉では細かいことは気にしなくてもいいと思う	13.6	15.7
話し言葉は正しく整えて使うべきだが、書き言葉では細かいことは気にしなくてもいいと思う	3.4	3.7
相手や場面などによって違うので、一概には言えない	21.0	33.8
分からない	1.2	2.0

これは生活の中で言葉を使う際の意識調査です。「言葉は大切なので、書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだ」が47.6%で、平成20年度より14.3ポイントも増えていました。また、「相手や場面などによって違うので、一概には言えない」が21.0%で12.8ポイント減少していました。これらは、生活の中で言葉を意識している人が増えてきている表れであり、言葉を曖昧にせず、いつも正しく使うことの必要性を感じていると考えられます。

「Ⅵ 新しい表現や、慣用句等の意味・言い方」では、慣用句の意味について右のような誤用が多くなされている結果でした。「なし崩し」は、「崩」という文字から「うやむやにする」といったネガティブなイメージを持ちがちです。しかし、「物事を少しずつ変えていき、そのまま片付けること」の意味で、例えば、借金を少しずつ崩していく（返済していく）ことです。そして、結果的にすべて返済することを意味しています。そこから転じて、物事を少しずつ片付けていくという意味に変化しました。

なし崩し	○少しずつ返していく	19.5
	△なかったことにする	65.8
けき を 飛 ばす	○自分の考えを広く人々に知らせ同意を求め	22.1
	△元気がないものに刺激を与えて活気づける	67.4
やおら	○ゆっくりと	32.2
	△急に、いきなり	30.9

慣用句の意味の反応率（2者選択、数字は%）

一気に……ではなく、コツコツと少しずつ（借金を）返していくというポジティブな意味合いの言葉です。

「檄を飛ばす」は、「激励する」意味で使いがちですが、もともと「檄」は「檄文」のことで、古代中国で人民を招集し説論するために木札に書いて出した文書のことです。そして、それを急いで回すという意味の「飛檄」を読み下したものです。だから、「自分の主張や考えを広く人々に知らせて同意を求める」という意味になります。

次に、慣用句の使い方です。これも右のように誤用が多く見られました。まず、「采配を振る」について、正しい使い方は「振る」です。「振るう」は「手腕を振るう」などの使い方と混同しているよう



采配

です。そもそも采配とは、戦場で大将が軍を指揮するための道具で、厚い紙を短冊状に細長く切って束ねて柄をつけたものです（左図）。それを振って指揮をしていたのです。

また、「白羽の矢が立つ」とは、白羽の矢が飛んできて「当たる」のではなく、その人の家に目印として「立てられた」ものなのです。これは、古来の風習の生贄の対象となる人の家の屋根に白羽の矢を目印として立てたことから転じて、「多くの中から犠牲として選ばれる」という意味でした。現代は、「特別に選ばれる」、「代表に選ばれる」というよい意味でも使用されています。

新しい表現を使うかどうかについて、「同じ（年）」、「相手と対等」を意味する「タメ」、「真剣勝負」、「本当に」の意味の「ガチ」などは、いずれも年代によって大きな開きがあり、年代が下がるにつれて多く使われているという結果となっていました。

最後に、文化庁は「言葉は時代とともに変容する。本来の意味から派生した使われ方も誤りとまでは言えない」と説明しています。もちろん、言葉の正しい意味を理解し、正しい使い方を心がけることは当然ですが、文化庁の言うように、使い方が変わって来ているものもあるようです。例えば、『日本国語大辞典』（小学館）では「采配を振るう」も一部認めています。そもそも「ふるう」とは、「思うままに取り扱う、棒状のものを縦横に駆使して用いる」という意味で、「采配」に「ふるう」を使ってもあながち間違っているとは言えない気もします。ちなみに、「ふる」は、全体を前後または左右に数回すばやく動かすという意味です。「ふる」「ふるう」は音も似ていて意味も近いため混同してしまいます。「采配をふるう」が『日本国語大辞典』以外の辞書に登録される日も、そう遠くないかもしれません。言葉は時代の移り変わりで変わるものなのではないでしょうか。

別件ですが、土・日曜日の雨天により、市小学校球技大会が裏面のように延期されました。バスケットボール部の結果とともにお知らせします。

チームや部署に指示を与え、指揮する	○采配(さいはい)を振る	32.2
	△采配を振るう	56.9
胸のつかえがなくなり気が晴れる	○溜飲(りゅういん)を下げる	37.4
	△溜飲を晴らす	32.9
多くの中から選出される	○白羽の矢が立つ	75.5
	△白羽の矢が当たる	15.1

慣用句の使い方の反応率(2者選択、数字は%)

	使うことがある	聞いたことはあるが使うことはない
上から目線の言い方をされた	57.4	37.2
彼とはタメ口で話をする	51.0	35.2
ガチで勝負をする	41.0	46.9
自分の立ち位置を確認する	48.5	40.5

新しい表現や慣用句等の意味・言い方の反応率(数字は%)

○ 市小学校球技大会

9月29日(土)・30日(日)の結果と今後の予定

- ※ 9月29日(土)は雨天のため、室内競技のみの実施となりました。
- ※ 9月30日(日)は台風接近のため、全競技が延期となりました。
- ※ 次回の開催日は、10月6日(土)・8日(月)・14日(日)が予定されています。

【バスケットボール女子】

- ◇ 9月29日(土) 会場 大樹寺小  
2回戦 根石小 36-29 梅園小 ●



バスケットボール女子(対根石小戦より)

【ソフトボール男子】

- ◇ 10月6日(土) 会場 福岡小  
3回戦(10時50分開始) 対 矢作北小  
4回戦(14時30分開始) 対 根石小と細川小の勝者
- ◇ 10月14日(日) 会場 未定  
準決勝(9時開始)  
決勝(11時45分開始)



ソフトボール男子(対矢作西小戦より)



【ソフトボール女子】

- ◆ 10月6日(土) 会場 福岡小  
準決勝(12時40分開始) 対 附属小
- ◆ 10月8日(月) 会場 井田小  
決勝(12時40分開始) 対 広幡小と矢作東小の勝者



ソフトボール女子(対連尺小戦より)

【サッカー】

- ◆ 10月6日(土) 会場 羽根小  
3回戦(10時15分開始) 対 常磐小
- ◆ 10月8日(月) 会場 羽根小  
準決勝(9時開始) 対 六名小と六ツ美西部小の勝者  
決勝(13時開始)



ソフトボール女子(対根石小戦より)



バレーボール部女子の笑顔